



徳島で役員会

来年度総会日程など協議

塩出 栄(RNB)

四国民放クラブは1月下旬、来年度から事務局となる徳島市で役員会を開き、令和8年度の総会日程のほか、総会に提案する予算案、役員改選、年1回のゴルフ会や各県単独で実施する事業計画案等についても協議します。

ほかの地区でも同じ悩みをお持ちの場合が多いと思いますが、最近では、地区内全域の会員が一度に集まる活動は難しくなっているため、懇親会や「うまいもの会」などの催しを県ごとに開催するなど、できるだけ参加しやすい活動形態を模索・協議しているところです。

役員会では事業計画や会員増強などのほかクラブの運営について会員の方々から広くご意見、ご提案をお待ちしています。

総会のご案内は3月上旬ころになります。多数のご参加をお願いいたします。

篆刻を楽しむ安川通夫さん

塩出 栄(RNB)

昨年10月末、高知地区で「弘法大師空海を学ぶ会」が開催されましたが、原稿締め切り後であつたため、この報告は次号に掲載する予定です。

今回は会員紹介として、南海放送OBの安川通夫さんを紹介します。



令和8年の年明け、毎年元旦には安川先輩から年賀状をいただく、その賀状には美しく彫られた印「篆刻」(てんこく)の、年明けを寿ぐ優美な文字が押されています。

安川さんの篆刻人生は南海放送が本町会館にカルチャーセンターを開設した時、当時の先輩担当部長から受講を勧められたのが始まりとのこと。

篆刻は書道の一分野とされていて、小学一年生から高



篆刻作品を手に、安川さん



安川さんの篆刻作品

校まで書道を習っていた安川さんにとって馴染みやすかったとか。安川さんが篆刻を始めてから半世紀、これまで同好の友と展覧会を開催したほか、乞われて地元新聞社の主催するカルチャースクールで10年に亘って講師を務めるなどその力量が窺われます。90歳になられた現在まで続けている篆刻。永年の研鑽が生み出す印には安川さんのお人柄が映しだされているように思われます。これからもお元気で美しい作品を彫り続けてください。